



教育者にして政治家－中仙道の人

故「虫明 松次郎」さん

その人の足跡をたずねて

(その1) 頌徳碑は語る

旧今村に頌徳碑が三基建っている。そのうちの一つ、「大森 喜一」さんの頌徳碑についてはすでに書かせてもらったので、今回は、白鬚宮の境内に頌徳碑の建てられている、「虫明松次郎」さん(上掲写真)のことについて書かせてもらおうと思う。

碑 德 頌

昭和八年三月

森谷敬之 撰並書

虫明君通称松次郎岡山県御津郡今村中仙道人天資剛直言必信事必
果無以艱難而廢矣明治十五年卒業於師範学校在郷齋數月聘為野中
学助教諭次歷任高等学校及農學校皆有嘉績退而監督御野堰埭埭
水所及四千余町歩田園窮達繫焉君選任郡會議員又選縣會議員為參
事會員頗通機微貢獻尤多大正十一年廢止郡制也致力郡道移管十五年
聖上以儲位行啓郡下也為鄉閭設實行要項五條以為記念之業風教大
興昭和二年開通道路橋梁村民依其澤三年設納稅貯金組合以記念即
位大典公私享益凡有事關民福者指導走奔大勉是以鄉党一心善濟其
美云頌鄉民欲樹碑永頌其德需文予予興君結交不淺乃為記之

虫明松次郎さんは、田中野田から北東隣りの中仙道の方で、文久元年(1861年)12月の生まれ、昭和15年(1940年)5月に亡くなられておられる。大正生まれの私も、松次郎さんは近くの人だからお目にかかったことはあるはずのように思えるが記憶にないである。

松次郎さんの事跡はつぎの碑文によって知ることができると思うが、親戚の虫明弘さんから、松次郎さんが青少年時代だった頃の修学の履歴書等を見せていただき、明治初年当時の学制や学習施設などもわかってよい勉強になったので、それらのことにも触れようと思う。

まずは、碑文について見よう。頌徳碑に掲げてる文章は左に掲げているとおりであるが、漢文なので、私なりにつぎのように現代文に意訳してみた。

虫明君、通称松次郎さんは、岡山県御津郡今村中仙道の人である。天資剛直で、言わることは信頼でき、事を為せば必ず成果をあげられる。艱難なるが故に常に中途で放棄されるようなことはなかった。

明治15年、師範学校を卒業され、郷里の学校に数か月勤務、招かれて御野中学校助教諭となり、ついで、御野高等小学校及び高松農学校を歴任されて功績を上げられた。
(註1)

退職後、御野堰埭(御野井堰)及び埭水所(貯水所)の監督(用水組合理事)となられ、田園4千余町歩に係わる用水の調整をはかられた。

君は、郡会議員に選任され、また、県会議員に選ばれでは、参事会員となる。(註2)
頗る機微に通じ多大の貢献をなす。

大正11年郡制廃止となるや郡道移管に力を尽くす。(註3)大正15年聖上のおぼしめしにより、皇太子殿下(のちの昭和天皇)が郡内を行啓されたが、その際、郷里のために実行要項5か条の記念事業を実施して、教化の成果をあげた。(註4)昭和2年、道路・橋梁が開通して、村民はその恵沢をうけた。昭和3年、今上天皇即位御大典の記念事業として、納稅貯蓄組合を設立し公私ともに受益する。およそ、住民の幸福に関するこことには、指導奔走大いにこれ勉められた。ここにおいて、郷里の人たちは、一人として虫明君をほめたたえない者はなかつた。

近ごろになって、郷土の人々、碑を建て永くその徳をたたえたいと、私に碑文を求められた。私は、虫明君との交友浅からず、よってこの文を書いた。

昭和8年3月

森 谷 敬 之 書

註1 最初の勤務先は、児島郡甲浦小学校(今村史には吉備郡庭瀬小学校とあるが)で、隣村、大野小学校の校長もされている。

註2 大正8年、県会議員になっておられる。当時の議員定数は御津郡が2人であった。また、選挙権のある者は、当時、25歳以上の男子で、国税(地租)3円以上を納めている者に限られていたから、有権者は地主で概ね一家の主人ということになっていたはずだ。

註3 当時の郡道を県道に移管することに尽力されたわけだが、県道となった道路は中仙道一米倉線である。この路線の詳しい説明は省略するが、田中野田町内では現在のバス通りがその一部である。(今の人には、あのバス通りが“県道?”と思われるかもしれないが。)

註4 記念事業の内容は、今となってはよくわからない。

(松次郎さんの「修学の履歴」は次号で)

平成10年1月号 第45号

(中 尾 佐之吉)